

2021年度入学予定者
関西学院大学ロースクール
入学前学習プログラム

通信添削講座

憲 法 問 題

《 解答時間 80分 》

【憲法問題】

次の文章を読んで、〔設問〕に答えなさい。

Xは、刑事被告人として勾留によりP拘置所（刑事施設）に収容されている者である。P拘置所では、被収容者が定期購読し得る新聞紙について、毎年被収容者に対して実施するアンケート調査の結果に基づき、拘置所長Yが2紙を選定することになっている。Xの収容時点では、前年度のアンケート調査の結果に基づいて、日刊新聞紙であるA紙とB紙が選定されていた。

P拘置所では、新聞紙が配達された後、職員によって内容検査が行われる。内容検査では、記事内容だけでなく、広告として掲載されている週刊誌の見出しなども確認し、被収容者に閲読させることのできない部分（例えば自殺事故を内容とするもの）については、主として抹消の方法により、厚紙で抹消箇所以外の外枠を作成し、インクを染み込ませたローラー又は黒マジックなどを使用して抹消箇所を黒塗りし、乾燥させるという作業が行われる。2000名を超える被収容者がいるP拘置所では、毎朝届けられる500部の新聞紙について、3名の職員が始業時刻の2時間前に出勤して内容検査を行っていた。もし、被収容者全員に対して各々が希望する新聞紙の定期購読を認めた場合には、拘置所が取り扱う購読紙の紙種が増えて部数も膨大なものとなり、内容検査の負担が増えるだけでなく、仕分けや配布作業などの業務に多大な時間と労力が費やされる。そこでYは、選定した2紙以外の新聞の定期購読を認めれば、拘置所内の規律および秩序維持のための業務態勢に大きな影響が及ぶと考えていた。

Xは、収容前から、Yが選定した2紙とは記事の内容や取り上げ方の異なるC紙（日刊新聞紙）を定期購読していたため、収容中も自費による定期購読をYに求めた。しかし、Yは、前記の考えから、刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律71条に基づき、Xの要求を認めなかった。【参考資料】

もっとも、P拘置所においては、差入れの方法によりさえすれば選定された2紙以外の新聞を購読することは可能であり、その旨の説明をXはYから受けていた。しかし、差入れによる場合、外部の人間に依頼し、毎回その者に差入れを行ってもらう必要があり、また、差し入れられた新聞は内容検査に数日を要するのが通例であったため、Xは差入れの方法によることを断念した。

Xは、YがC紙の定期購読を認めなかったことは違憲、違法であるとして、国を相手に国家賠償法1条1項に基づき慰謝料などを請求しようと考えている。

〔設問〕

あなたがこの相談を受けた法律家甲であるとした場合、上記事案における憲法上の問題点について、どのような意見を述べるか。Xの憲法上の主張について、いかなる憲法上の権利との関係で問題になり得るのかを明確にしたうえで、参考とすべき判例や想定される反論を踏まえて論じなさい。

【参考資料】 刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律

（新聞紙に関する制限）

第71条 刑事施設の長は、法務省令で定めるところにより、被収容者が取得することができる新聞紙の範囲及び取得方法について、刑事施設の管理運営上必要な制限をすることができる。